

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300909		
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会		
事業所名	済生会山口地域ケアセンター グループホームあさくら		
所在地	山口県山口市朝倉町4-55-6		
自己評価作成日	平成24年4月27日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『あさくらの主人公は「入居者の皆様」です。住み慣れたふるさとの地域で入居者の皆様に、寄り添いながら支援させていただきます。』を基本理念に利用者の「できること」を活かし、その人らしい生活が継続できるよう、支援している。利用者が趣味で行っていたこと、得意なことを活かせる場面作り(オルガン、歌、生け花、調理等)を行っている。同一敷地内には湯田温泉病院、在宅複合型施設やすらぎ等があり、医療面での相談、協力体制や、各種行事や研修の連携等もしている。本人、ご家族の思いや職員の気付きを共有し、日々の関わりに活かせるように努めている。地域の町内会にも加入し、地域の行事に参加し、関係作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

センター方式のシートを活用して利用者一人ひとりの思いや意向の把握をされ、住み慣れた地域でその人らしい生活が継続できるよう寄り添いながら支援に取り組まれています。利用者との日々の関わりの中で気づいた、変化する利用者の状況に伴い、個別の要望に応えられる支援について現状を話し合い、職員からの意見や提案を運営に活かしておられます。利用者一人ひとりに寄り添う時間を多くする為に、昼食を法人厨房からの配食を利用して時間をつくり、月に1回は担当職員との外出機会を増やされたり、日勤者の勤務体制を工夫されるなど、寄り添う時間を増やし支援しておられます。代表者は、職員を育てる取り組みとして、職員各自の段階的、計画的な研修として、ラダー研修、キャリアアップ研修、委員会研修を行い、ケアの質の向上を目指しておられます。同一敷地内に医療連携施設があり、関係者との相談や医療面での連絡体制が取れており、利用者や家族の安心、安全につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『あさくらの主人公は「入居者の皆様」です。住み慣れたふるさとの地域で入居者の皆様に、寄り添いながら支援させていただきます。』を基本理念に、日々の関わりを管理者、職員で見直しながら実践している。	理念を見直し「住み慣れたふるさとの地域」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、事務室に掲示する他、職員会議等で理念を確認して共有し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事(清掃活動、お祭り等)に参加したり、散歩の際には、地域の方と顔なじみの関係ができるように努めている。また、法人全体の夏祭りは町内会と共催で行っている。	自治会に加入し、総会や八幡様の祭り、清掃作業に利用者も一緒に参加している。法人主催の夏祭りは地域と共催で実施し、子供からお年寄りまで多くの参加があり、交流を深めている。地域の人から畑を借りて野菜づくりをしたり、散歩時には声をかけてもらうなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で職員による認知症の劇に取り組んだり、地域の方を対象に講座に取り組んだりしている。事業所独自でも地域に貢献できることがあれば、取り組んでいきたい。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価項目については、職員全員で記入し、その後見直しを行っている。評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、職員全員が自己評価に取り組んでいる。評価項目を職員全員で分担し、記入して、主任がまとめ、各項目の理解を深めるために全員で協議をしている。利用者に寄り添う時間を増やすための工夫など、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、自治会長、民生委員、包括支援センター職員に参加してもらい、2ヶ月に1回開催し、行事報告や状況報告を行っている。そこで得た意見を反映できるよう取り組んでいる。	年6回開催し、家族の半数以上が出席している。毎回ミニ講話を実施し、利用者の状況や行事、職員の活動状況を報告している。外出の場所や方法の提案、畑地の提供、防災訓練などについての意見交換して、サービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	基幹型包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらったり、質疑を通して関係作りを行っている。	運営推進会議の他、市が隔月開催する介護サービス提供事業所連絡会議に出席して、市担当課に困難事例等について相談し、助言を受けるなど協力関係を築いている。介護相談員の受け入れもしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアセンター独自の身体拘束廃止基準があり、内部研修にて身体拘束廃止に向けての取り組みについても理解を深めている。玄関の施錠に関しても、夜間のみの施錠で対応している。	身体拘束をしないケアについては、基準があり、研修を実施して、職員は正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアセンター内の虐待防止委員会に職員が委員として参加し、そこで得た知識を活かし、日々の関わり、声掛け等に関しても振り返るように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を利用している入居者が2名おられる。市社会福祉協議会、権利擁護センター推進員へ月1回、利用者の状況を報告している。また気になる点等あれば、連絡し、相談している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際には、利用者、ご家族等とじっくりお話しし、不安や疑問点等についてもお尋ねし、十分理解、納得していただけるよう、努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情申立窓口について明記するとともに、玄関に苦情要望箱を設置している。また面会時、電話や運営推進会議でのご家族からの意見等は運営に反映させている。また介護相談員の訪問等も行っている。	利用開始時に苦情申し立て窓口と対応について説明している。運営推進会議出席時や面会時、電話等で聞いたり、介護相談員を通して聞くなど意見や苦情が気軽に言える機会を設けている。外出場所やケアの実際についての提案や相談があり、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を行い、意見交換を行うとともに、日々疑問点や改善点はミニカンファレンスを行い、改善に努めている。	月1回の職員会議や月2回のミニカンファレンス時、毎朝の申し送り時に直接聞く機会を設け、出た意見は職員間で話し合っている。月に1度、利用者と担当職員との外出を計画したり、日勤者の勤務時間帯の変更や昼食を法人からの配食を利用することで利用者に寄り添う時間が多く取れるようにするなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事企画書、行事報告書、職員会議、面談等を通して、日々の状況の把握に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では経験年数に応じて、ラダー研修、キャリアアップ研修、職員研修に参加している。法人外の研修に関しても、経験年数、希望等に応じて機会の確保に努めている。また研修で得た情報を共有するよう、努めている。	法人全体で年間を通して計画的な研修機会が設けてあり、職員は、ラダー研修、キャリアアップ研修、委員会研修に参加している。外部研修は勤務年数や段階に応じて受講の機会を確保するよう努める他、資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会に所属し、研修やブロック別の勉強会、見学会等にも参加している。そこで学んだ情報等、共有するよう、努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人やご家族に事業所を見学してもらい、居室、浴室、共同トイレ等の説明を行い、また不安や要望等についても、じっくりお話するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に見学してもらい、ご本人が入居前から「できること」を活かし、生活できるよう、またご家族からの不安や要望等についても、情報を活かし、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間でこまめにカンファレンスを行い、情報交換を行っている。また、他サービスが必要な場合は相談し、支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と日々の生活を共にしながら、畑仕事や花作り、料理等を一緒に行う中で、野菜、花の育て方、味付け等、得意なことを教わり、共に支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族へ近況を報告するとともに、ご家族の要望等の把握に努めている。また、遠方のご家族にも近況報告ができるよう、各担当職員が手紙を記入し、発送している。また、畑作りもご家族が中心となって行ってくださっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が通っていた青果店や喫茶店を利用したり、馴染みの場所への外出も行っている。また友人が面会に来られたり等、ご家族の協力を得て、支援している。	入居時にアセスメントシートを利用して馴染みの場所や人を把握し、職員間で共有している。友人、知人の来訪、馴染みの美容院の利用や商店に出かけたり、家族の協力を得て、以前勤めていた職場への訪問や自宅への一時帰宅、墓参りなどを馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファの座席も、利用者同士の関係に配慮し、検討を行っている。また、互いの部屋で過ごす場面も時折見られる。歩行や食事の際、手を貸したりする場面も見られる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、利用者と一緒に面会に行ったり、退去後もグループホームに遊びに来られ、利用者とお話しされる方もあった。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員1名が利用者1、2名を担当し、日々の関わりの中で会話や表情等から本人の思いの把握に努め、他スタッフも日々の関わりの記録を大切にし、情報の共有に努め、本人の思いを大切にしている。	センター方式の「私の姿と気持ちシート」「お願いメモシート」を活用し、日々の関わりの中で、思いや暮らしかたの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族の意見を聞くなどして、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人、家族から聞き取り、センター方式のシートを活用して、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身状態を観察し、個人記録に記入している。気になる点は職員間で話し合い、現状の把握のケアへの工夫へと繋げている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	把握している本人の思いや面会時等に聞いた家族の思い、必要時には医師や栄養士等から意見をもらい、ケアカンファレンス時に話し合い、介護計画を作成している。	職員1名が利用者2名を担当し、本人の思いや家族の希望、医師や栄養士、言語療法士、看護師等と話し合い、関係者の意見を参考にして介護計画を立てている。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、状況に応じて見直しをしている。カンファレンスは月1回行い、6ヶ月毎に介護計画を見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の内容について、個人記録に記入し、気づきや変化があった場合、担当職員を中心にカンファレンスを行い、情報の共有、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎や付き添い、外出、自宅への帰宅等への支援を行っている。併設保育園児との交流や他施設での行事への参加等、行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会へ参加し、清掃活動等、地域行事へ参加したり、利用者の馴染みの店での買い物や散髪等、本人の生活や関係性が継続できるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者によっては、かかりつけ医へ家族とともに受診される。専門医にかかる際などは、本人、家族に希望等を聞き、受診の送迎等の支援を行っている。	かかりつけ医には定期的に受診する他、その他の医療機関への受診は個別に対応し、送迎等の支援をしている。受診後は家族、かかりつけ医と情報を共有し薬の管理も含め、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している訪問看護ステーションと連携を図り、夜勤者が毎朝利用者の状況を記載し、報告している。また週1回バイタル測定に訪問してもらい、相談も行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、日頃の様子等を情報提供書に細かく記載するとともに、情報交換や相談に努めている。早期退院に向けて、ご本人、ご家族、病院と話し合いながら、支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族を含め、重度化した場合や終末期について、話し合いを行っている。看取りの事例はないが、現在取り組んでいる段階である。家族や主治医、職員、訪問看護ステーションと話し合いながら取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から主治医や看護師、家族等関係者と話し合い、方針を共有して、家族、本人の希望に添うよう支援している。現在、ターミナルケアにチームで取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント報告書や事故報告書を記入し、対応策を検討している。緊急時の対応も施設独自で勉強会を開催したり、救急救命の研修等に参加している。	インシデント報告書や事故報告書を基に、職員間で話し合い、対応策を検討して、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。事故防止マニュアルをもとに研修をする他、年1回の救急救命法の研修や応急手当、初期対応の訓練を実施し、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、グループホーム独自のものとセンター全体の訓練に参加している。グループホームでの訓練の際には、利用者に実際の火災等を想定し、避難してもらい、地域の自治会長や民生委員にも参加してもらっている。	年2回、昼夜を問わず利用者が避難できるように、消火、避難、通報訓練を利用者と一緒に、地域の人の参加を得て実施している。地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り等では、本人の名前を使わず、部屋の 名前で申し送りを行い、プライバシー確保 に努めている。また言葉かけや対応につい ても、随時職員間で話し合いながら、検討し ている。	研修を実施し、人格の尊重とプライバシーの 確保について理解している。入浴時やトイレ 誘導時の声かけ、呼称にも留意し、誇りやプ ライバシーを損ねない対応を心がけている。 不適切な対応があれば、職員間で互いに注 意しあっている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	本人としっかり話す時間を持ち、できるだけ、 本人の思いや希望を表現したり、些細なこと でも自己決定してもらえるような場面作りに 心掛けている。(衣服の選択、食事の選択 等)		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの過ごし方やペースに合わせて、 対応するよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	自分で衣類を選んでもらったり、担当職員と 服を買いに行ったり、馴染みの店で散髪をし たり、一人ひとりに応じた支援を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	4月より昼食のみ、配食を開始したが、夕食 等は利用者の希望を聞き、献立を決めたり、 準備や調理、片付け等を一緒に行ってい る。職員は一緒にのテーブルで食事を取り、会 話を楽しみながら、支援している。	昼食は法人厨房からの配食を利用している。 朝食、夕食は事業所内で調理している。利用 者と職員が一緒に献立を立て、買物、下ごし らえ、調理、配膳、後片付け等、利用者ので きることを職員と一緒にしている。利用者と職 員は同じテーブルで会話を弾ませながら、食 事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し、食事量や水分量 の把握に努めている。また個々の状態に応 じて、栄養補助食品等を活用し、支援してい る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は夜間事務所にて預かり、洗浄剤を使用している。個々の状態に合わせて、歯ブラシや口腔ケア用品も検討している。必要に応じて、歯科医の往診等も利用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄のパターンや行動を把握し、定期的に声掛けや誘導を行っている。担当職員を中心にパットの使用や種類、必要性等についても検討を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導で排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士に相談しながら、食材選びや献立にも気を配っている。また水分量や排泄チェックも記録している。気になる点があれば、申し送り、必要に応じて、訪問看護ステーション等に相談している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	当日の本人の体調や気分を考慮し、なるべく希望に添うように支援している。ゆず湯やばら湯等も時には行っている。入浴を嫌がられる場合は、足湯の声掛けをしたり、散歩後に促す等、職員間で検討しながら、対応している。	入浴は毎日、13時30分から20時まで可能で、利用者の希望や状態に合わせてゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。柚子湯やバラ湯、入浴剤を使うなど入浴を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態によって、ソファや自室ベッドで休めるように支援している。また、室温調節し、安眠が図れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表に個人別に薬を記入している。薬効表のファイルには目的や副作用等記入されているので、目を通すようにしている。また薬をセットする人、確認する人、与薬する人、与薬後確認する人と4回チェックし、もれがないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式で、利用者の生活歴や思いを把握し、料理、生け花、オルガン、歌、絵画等、活躍できる場面作りや楽しみごとへの支援をしている。	新聞を読む、テレビを見る、読書、絵を書く、折り紙、絵手紙、花札、額縁づくり、オルガンを弾く、新聞を取りに行く、生花を生ける、野菜づくり、買物、調理、盛り付け、後片付け、洗濯物たたみなど、活躍できる場面を多くつくり、一人ひとりが喜びのある毎日が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩や買い物、外出など、一人ひとりの希望や状態に応じて、外出支援を行っている。また、本人の行きたい場所の把握に努め、外出、外食等を計画している。	散歩や買物、美術館、足湯、季節の花見(つつじ、紅葉)やドライブ(江汐公園、リンゴ狩り、イチゴ狩り等)など戸外に出かけられるよう支援している。月に一度は、個別に希望する場所へ担当職員と二人で出かける支援をしている。外食や一泊旅行など、家族の協力を得て戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はグループホームで行っている。買い物の際には、本人に支払ってもらうように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞い、絵手紙教室で作成した作品を送ったりしている。また本人の希望があれば、手紙や電話も対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間もぬくもりある場であるように心掛けている。利用者の作品(絵手紙教室、手芸教室)や写真などを掲示している。	共用の食堂兼居間は明るく、広く、対面式のキッチンからは調理の音や匂いがし、テレビの前のソファでは利用者が談笑し、家庭的な雰囲気があり、五感刺激に配慮した共用空間となっている。壁には、利用者の作品(絵手紙や写真)が飾られ、室内には季節の花が活けてあり、温度や湿度、換気にも配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、ベンチ等、本人の落ち着ける場を見つけられるよう、配置に関しても、検討、工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛用されていたダンスや鏡台、仏壇を持って来られている方もある。本人や家族、職員と相談しながら、居心地よく過ごせるように検討している。	使い慣れた家具やテレビ、洋服掛けスタンド、鏡台、仏壇、ぬいぐるみ等を持ち込み、壁には思い出の写真や自作品の絵画、絵手紙、カレンダー等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じて、室内の表示、配置等についても検討している。(時計、カレンダーの位置等)一人ひとりの「できること」、「わかること」の情報の共有を図りながら、その人らしい生活の支援ができるように検討している。		